

出会い生み出せる場に

型技術協会 会長 田岡秀樹氏



来年30周年、記念事業

全社参加の展示会

金型技術者、経営者らが集まる型技術協会は来年30周年を迎える。来年9月には、大田区産業プラザP.i.Oで記念イベントを開く予定だ。「全会員参加で出会いの場を創る」という田岡秀樹会長に、協会の取り組みや30周年企画、今後の展開などについて聞いた。

歴代の会長が金型への思い話す講演も

「あらためて型技術協会 立ち上げたのが始まり。 について教えて下さい。 30年前に東大の中川 機、部品メーカーの金型 威雄教授らが学会でも経 営者だけの集まりではな 技術者、金型メーカー、 大学教授などで、この多 くの、型技術を核としたユ 様さが特長ですね。」
「どんな会を作りたいと ーどんな活動をしていま



すか。

「丸2日掛けて金型を語り合う型技術者会議と、研究発表会や金型工場を見学する型技術ワークショップが大きなイベントです。その他にも年12回程度セミナーや交流会を開いています。」

「来年9月に30周年イベントを開くそうですね。」
「どんな会でもそうかもしれませんが、残念ながら、残念ながら当会も熱心な会員だけが参加する企画が多かった。これだけ多様性があるのだから、参加者が増えれば増えるほど意味もある。だから30周年のイベントは全員参加できる企画にします。」

「具体的には。」
「三二展示会を開く予

定です。約900社・個人の会員がいますが、全員に1小間を設けて自社や自社をPRしてもらいます。どんなことでも構いません。困っている加工や課題など出してもいいし、強みをPRしてもいい。新たな出会いや交流を創出させる場にした。金型に詳しい900人と会話できる機会なんてないはず。」

「ほかに歴代会長に金型への想いを話してもらうなど、様々なイベントを計画しています。」
「今後どんな会にしたいですか。」

「今はネットを含め多様な手段があるので、情報を得るだけの会ならばあまり意味はない。でも人が出会って議論して、生まれる価値はあります。そうした出会いや価値を生み出せる場にしていきたいですね。また、金型が大好きな人が誰でも気軽に参加しやすいようにもっと開かれた会にしていきたいですね。」